

NPO パートナーシップ協力プログラム 事業終了報告書

団体名 特定非営利活動法人 地球のステージ

代表者名 代表理事 桑山 紀彦

1. 事業名

閑上の記憶「3月11日追悼の集い」の継続開催支援事業

2. 事業カテゴリー

パートナー協働プログラム対象事業

3. 事業期間 2021年3月1日 ～ 2021年3月31日 (31日間)

4. 契約金額

500,000円

5. 担当者名

武田 絵莉香

6. 事業目的

遺族や地元住民、閑上に思いを寄せてくださる全ての人々がそこに集い、同じ思いや時間を共有し、後世につなぐための場として「3月11日追悼の集い」を開催する

7. 事業の成果

2020年11月ごろより、3月11日をどう過ごすかという話し合いを持ち、今年も毎年と同じように鳩風船を飛ばす「追悼の集い」を行いたいという声が遺族会から出た。大切な人を亡くした命日をたくさんの人と過ごすことは、心の負担になったり、家族の理解が必要になる。そのフェーズを過ぎ、遺族としても当たり前のように「追悼の集い」をしたいということに驚いた。

今年は新型コロナウイルスの流行から1年が過ぎ、ウイルスへの付き合い方や予防方法を各自対策できるようになっている。その点を踏まえ、「スタッフも本気で、しっかりと対策をしたうえで開催する」という意思統一をし、4ヶ月に渡り準備を進めた。「追悼の集い」を開催すると決めた同時期から、報道機関からの問い合わせと取材の依頼が届くようになり、関心の高さが窺えた。

集いは、閑上の記憶スタッフでの話し合い→閑上中学校遺族会での話し合い→外部スタッフへ情報共有、という流れを何度か繰り返しながら当日に備えた。

(※外部スタッフ：今まで活動に関わってきた旧スタッフも集いの日には皆が集まっている)

当日は400名の参列者、28社のマスコミ約100名、約370個の風船を空に届けることができた。閑上地区に住んでいた人たちは自宅が流され、大切な人が亡くなり、さらに遺品が何も手元に残らなかった。でも、今、何にも残っていないから閑上にいないわけではない、見えない人に見えるものでメッセージを届ける、

想いを形にすることは心の整理にもなり、あの日と向き合うことになる。

閑上の記憶では、「追悼式」ではあるものの「誰でも参加できる」とうたい参加をすることの間口を広げていたことがたくさんの参列者と想いを共にできたことにつながった。さらに今年はコロナウイルスの感染対策のために閑上に足を運べないという声もあったことから、オンラインで生配信を行った。具体的な配信媒体は写真や動画共有するソーシャルネットワーキングサービスアプリ「インスタグラム」を使用しました。閑上の記憶独自のアカウントから約 30 分の生配信、アーカイブを残し後から見ることもできるように動画をアカウントに残した。

8. 事業種別（コンポーネント）ごとの成果

コンポーネント①

参列者 350 名、風船 371 個、マスコミ 28 社 100 名参加。

コンポーネント②

コロナウイルスの感染対策は確実なものとのプロの指導が必要だと考え、仙台市の保健師で地球のステージ旧スタッフに当日入ってもらい、意見を仰ぎながら感染対策につとめた。クラスターや感染者を出すことがなかったのは、シビックフォースの支援と、スタッフの努力による賜物である。

9. 事業全体を通じて得た教訓や課題等

オンライン配信は、閑上地区に来ることができない人のための一つのツールでしかない。さらにインスタグラムはアカウントがなければ見ることができないので、来年の開催はもっと多くの人が見てくださるようなソーシャルネットワーキングサービスを利用する工夫が必要だと思った。

10. 協力体制の構築

別紙にてスタッフスケジュールを共有。

11. Civic Force との協働について

「閑上の記憶」の活動、東日本大震災のこと、心のケアのこと、この追悼式についての理解、全てをご理解いただいているシビックフォースと協働してこの事業ができたことはメリットしかない。